
僕の好きなアニメ & ゲームのキャラで逃走中！ ～ 王国に迫る危機～

i z u m i

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

僕の好きなアニメ＆ゲームのキャラで逃走中！〜王国に迫る危機〜

【Nコード】

N7073X

【作者名】

izumi

【あらすじ】

「僕の好きなアニメ＆ゲームのキャラで逃走中！」第3弾！今回の舞台はとある王国！平和でのどかな王国に危機が迫る…。そして、裏で暗躍する謎の人物の正体は！？果たして、逃走者たちは、無事、ハンターから逃げ切り、賞金を獲得できるのか！？

プロローグ（前書き）

はい、どうもizumiです！

ついに始まった「僕の好きなアニメ&ゲームのキャラで逃走中！」
第3弾！

今回も頑張っていきますのでよろしくお願いします！

ブローグ

此処はとあるビルの一室。そこには今宵がいた。

今宵「やはりゲームマスターを任されるのは緊張するものだな…。」

そして今宵はモニターを確認した。

今宵「さて…今回も楽しませてくれよ…。」

今、今宵が見ているモニターには…。

『the city』

『the edo』

『the kingdam』

『night amusement park』

の4つが表示されている。

今宵「では、ゲームスタートだ。」

今宵は表示されているうちの『the kingdom』をためら
いもなく押した…。

ブログ（後書き）

活動報告でも書いたとおり、今はいろいろバタバタしています。

なので今のところは投稿ペースが遅くなると思います。

でも頑張って投稿していきます！

なのでよろしくお願いします！

逃走者紹介（前書き）

今回の逃走中に参加する逃走者たちです。

前回の人数よりは少ないです。

訂正 一部の逃走者の説明を変えました。

ある程度は他の作者さんからの逃走者紹介を参考にしています。
特にぶよぶよ勢）

逃走者紹介

逃走者紹介

『魔法少女リリカルなのはStrikers』

高町なのは

「エース・オブ・エース」の称号を持つ若手トップエリート魔導師。前々回参加した時はヘリに見つかり確保された。今回もミッションには積極的に参加する。

フェイト・T・ハラウオン

なのはの幼馴染で親友。

前々回は前半のあたりで確保された。今回は長く生き残りたいと思っている。

八神はやて

守護騎士ヴォルケンリッターを従える魔導騎士。

前々回はミッション3の途中で確保された。

シグナム

ヴォルケンリッターの将。責任感が強く、ミッションには絶対に向かう。足はかなり速い。

ヴィータ

ヴォルケンリッターの一人。足は遅く、ミッションは他人任せ。

シャマル

ヴォルケンリッターの一人。足は遅いがミッションには向かう。

スバル・ナカジマ

機動六課に所属している少女。ミッションには向かう。足はかなり速い。

ティアナ・ランスター

スバルのパートナー。足は速いが、ミッションには向かわない。

『とある魔術の禁書目録』

上条当麻

学園都市に住む右手に「幻想殺し（イマジネブレイカー）」の力を持つ少年。

今回は装置を止められず、ハンターに確保された。ミッションには向かう。

インデックス

魔術師の少女。前回はいいい所を見せられず、確保された。
今回もミッションには向かわない。

御坂美琴

レールガン

超電磁砲の異名を持つ少女。前はハンターと鉢合わせになり、確保された。

ミッションには絶対に向かう模様。

白井黒子

常盤台中学校の1年生で第177支部所属の「ジャッジメント風紀委員」。
足は速く、ミッションには参加する。

『東方Project』

博麗霊夢

幻想郷で一番強いと言われている博麗神社の巫女。足は普通で、ミッションには行く。

霧雨魔理沙

幻想郷の魔法の森に住む魔法使い。足は速く、ミッションにも向かう。

十六夜咲夜

紅魔館のメイド長。身体能力は高く、ミッションにも向かう。

レミリア・スカーレット

紅魔館の主人で吸血鬼のお嬢様。足は普通で、ミッションは行く。

フランドール・スカーレット

レミリア・スカーレットの妹。足は普通で、ミッションは他人任せ。

アリス・マーガトロイド

魔法の森に住む魔法使い。足は普通で、ミッションは行かない。

『大乱闘スマッシュブラザーズX』

マリオ

おなじみのスーパースター。

前回は1stステージを突破するも2ndステージのミッション5の途中で確保。

今回も頑張りたいと思っている。

ルイージ

マリオの弟。前回はハンターに見つかり、確保された。今回もハンターが怖いのでミッションには行かない。

アイク

グレイグ傭兵団の団長を務める剣士。

前はミッション5の途中で確保。

今は三度目の正直と言うことを信じて逃走成功を狙う。

スネーク

「不可能を可能にする男」と呼ばれる男。

前はミッション3の途中で確保された。今は逃げ切って逃走成功を狙う。

『ぶよぶよ』

アルル

遠い世界から飛ばされた魔導師見習いの女の子。足は速く、ミッションにも積極的。

シェゾ・ウィグイイ

アルルの魔導師の力を狙う闇の魔導師。足は速いが、ミッションは行かない。

ルルー

自称サタンの婚約者の格闘女王。足はかなり速く、ミッションにも参加する。

ウィッチ

プライドが高く、自分に正直な性格の魔女。足は普通で、ミッションは状況次第で参加。

ドラコケンタウロス

美少女コンテストに情熱を燃やす半竜半人の女の子。足は速く、ミッションにも参加する。

アミティ

プリンプタウンの魔導学校に通う明るい女の子。足は速く、ミッションにも参加する。

ラフィーナ

良家のお嬢様で誰に対しても高飛車かつ高圧的な唯我独尊系少女。足はかなり速く、ミッションにも参加する。

シグ

虫を愛好する非常にマイペースな少年。足は遅く、ミッションには興味無し。

リデル

頭のツノを気にしている亜人間の女の子。足は遅く、恥ずかしがりやなため、ミッションには行かない。

クルーク

成績優秀だが、他の生徒を見下している自意識過剰でイヤミな性格の生徒。足は遅く、ミッションには向かわず自首を狙っている。

フェーリ

プリンプタウンの隣町の学校に通う生徒で、自分の世界にとっぷり漬かり込んでいるダークな少女。足は遅く、ミッションには行く。

レムレス

フェーリの先輩に当たる、学生ながら非常に優秀な魔導師で、彗星の魔導師を名乗る学生。足は普通で、ミッションは行かない。

サタン

自称・魔界の貴公子。足は普通で、ミッションは他人任せ。

以上の35人で逃走中を行う。

逃走者紹介（後書き）

上条当麻・御坂美琴・アイクが三回連続の参戦！

今回こそ逃げ切れるのか！？

そして、実力未知数のサタンにも注目！

エリア詳説（前書き）

今回のエリアです。

前回みたいにあいまいな感じではなくイメージしやすいように書いてみました。

こうやって書くと自分でもどんな感じなのか想像しやすい。

エリア詳説

エリア詳説

今回逃走者たちが逃げるエリアの舞台は伝説の剣士が存在していたと伝えられる『とある王国』。

中世の街並みつばい建物が印象的な王国である。

この国は水路が敷かれており、水路には移動手段として、船が通ったりしており、水路沿いの道がある。

エリアの広さは東京ドームの約7個分。

エリア中心から見て北西の位置に『王の城』があり、エリア中心部にはこの国の住民が平和に暮らしている『城下町』がある。

王の城の近くには不思議な力があると伝えられている『神秘の噴水』がある。

城下町の南側にはいろいろな物が売られている市場が開かれていて、北西側にはたくさんのお宝などがある『宝石の館』がある。

そして、王の城の近くには、漁船などが停泊している『港』と、離れ小島をつなぐためにある『跳ね橋』がある。

そして、エリアの北側には広大な森が広がる『緑の森』があり、隠れ場所としては最適の場所である。

その森の中心にはお祝い事やお祭りがあるときに使用される『パーティー広場』がある。

そして、南東側には風車が印象的な『花園の丘』がある。

此処は風車以外に目立った建造物は無く、隠れるのは困難である。

ちなみに、王の城と城下町、緑の森、花園の丘の間には水路があり、その間には橋が掛けられてある。

エリア詳説（後書き）

なんとか頑張りました…。

次回はついに、OPゲーム…。

オープニングゲーム（前書き）

エリア詳説を確認してみたらちょっと自分の想像していたエリア構成とは違う所があったので修正しました。

では、恐怖のオープニングゲーム、スタートです…。

オープニングゲーム

漆黒の闇の中、王の城がきらきら輝く下、35人の逃走者たちが集められていた…。

アルル「もうすぐだね…。」

サタン「アルル！いざという時はこの私が…。」

シエゾ「いや、この俺が…。」

アルル「もう二人とも！ボク一人でも大丈夫だよ！！」

なのは「頑張ろうねフェイトちゃん。」

フェイト「うん、なのは、頑張ろう！」

アリス「早くしてくれないかしら…。」

アイク「今回こそは絶対に逃げ切るぞ…。」

シグナム「もうすぐか…。」

逃走者たちそれぞれが気を引き締めている中、スピーカーから不気味な声が聞こえて来た。

『これより、ゲームを始める。』

レミリア「いよいよだわ…。」

美琴「始まるのね…。」

『君たちの目の前にいるハンターはボックスの中に閉じ込められている。』

君たちの前に置いてあるサイコロの目は2から6の目とハンターの目がある。

逃走者たちが協力して、ハンターボックスを30マス以上進めることができれば逃走者たちに1分間の猶予が与えられる。

しかし、ハンターの目を出せばハンターが解放たれ、ゲームがスタートする。』

逃走者たちがこれから挑むのは、恐怖のオープニングゲーム！

逃走者たちとハンターの距離はおよそ30メートル。

逃走者たちは一人ずつ、サイコロを振らなければならない！

サイコロには2から6の目とハンターの目がある。

逃走者たちは協力してハンターボックスを20マス以上進めることができる。1分間の猶予が与えられる。

しかし、ハンターの目を出した瞬間、ハンターが放出。ゲームが始まる…。

なお、サイコロを振る順番はくじ引きで決まっている。運任せだ…。

全員「いつせーの、でー!!」

カシャン!

マリオ「ええと…14番か…。」

フラン「ええ!?3番!?一番危ない所じゃん!!」

レミリア「私は25番だわ…。」

スバル「8番!ティアナは?」

ティアナ「あたしは10番だわ。スバルの2個次ね。」

シグ「おおー。34番。」

一人目 ルルー

ヴィータ「いきなり出さないでくれよ！」

ルルー「そんなの分かんないわよ！」

そう、このオープニングゲームに必要なのは…運だ…。

ルルー「でも逃げる準備はしたほうがいいわよ？」

マリオ「そうだな。」

ヴィータ「逃げる準備つと…。」

ルルー「行くわよ…。」

果たして、クリアか…ハンター放出か…？

ルルー「やあ！」

ルルーが投げた…。

トンッ！…。

ルイージ「一発目とかやめてよね…。」

サイコロの…。

ころころ…。

ルルー「お願い…。」

目は…！？

ころころ…ピタ…。

全員「！！」

サイコロの目は…。

「5」だ。

全員「怖〜!!!」

ルル「なんとか出さずにすんだわ…。」

ハンターボックス、5マス接近…。

ガガガ…。

サタン「うむ…思った以上に来るな…。」

クリアまで、残り15マス！

二人目 博麗霊夢

霊夢「絶対に此处で捕まりたくないわ…。」

魔理沙「霊夢ー！絶対にクリアしろよ！」

霊夢「当たり前でしょー！」

幻想郷で一番強いと言われている博麗霊夢、その運はいかに…。

霊夢「行くわよ…。」

クリアか…ハンター放出か…。

霊夢「はあ！」

ひゅー…。

果たして、出るのは…。

トンッ！…。

アルル「怖いよ…。」

数字の目か…。

ころころ…。

はやて「…。」

ハンターの目が…！？

ころころ…ピタ…。

全員「！！」

出た目は…。

「3」だ。

霊夢「危なかったわ…。」

ハンターボックス、3マス接近…。

クリアまで、残り12マス！

三人目 フランドール・スカーレット

フラン「ちょっとこれは厳しいかも…。」

レミリア「大丈夫よ、フラン！6分の1だから！」

もし、ハンターの目を出せばその瞬間ハンターが放出、恐怖のゲームが始まる！

フラン「そうだね…。じゃあ行くよ！」

クリアか…ハンター放出か…。

フラン「えーい！」

ひゅー…。

リデル「お願い…。」

果たして…。

トンッ…トンッ…。

出るのは…。

フラン「あー！やばい！」

マリオ「うおおおー！…！」

ドラコ「もうちょっとな回って！」

ハンターの目か…！？

ピタ…。

全員「！…！…！」

サイコロの目は…。

「6」だ。

フラン「やったああ！！！！！」

アリス「一番いい目じゃない？」

アイク「よし、もうちょっとでクリアできる！！！」

ハンターボックス、6マス接近…。

クリアまで、残り6マス！

次の一手でクリアできる可能性ができた！

シグ「おお…。」

レムレス「次6の目を出したらクリアなんだね？」

この重要な局面で回ってきたのは…。

四人目 ウィッチ

ウィッチ「近すぎますの…。」

ラフィーナ「あの距離で出たら危ないんじゃないの？」

もしこの距離でハンターの目を出せば犠牲になるのは一人では、済まない！

ウィッチ「行きますわよ！」

クリアか…ハンター放出か…。

ウィッチ「そおれ！」

ひゅー…トンッ！じろじろ…。

果たして…。

美琴「こんな所で出てほしくないわね…。」

この一手で…。

ころころ…。

ウィッチ「お願いしますの…。」

クリアとなるか!?

ピタ…。

ウィッチ「!」

全員「!」

サイコロの目は…。

「4」だ。

ウィッチ「クリアとまではいきませんでした…。」

ハンターボックス、4マス接近…。

ガガガ…。

当麻「うわぁ…近いつて…。」

ドラコ「もう目の前じゃん！」

フェイト「次が重要だね…。」

クリアまで、残り2マス！

サタン「次で決まるのか…。」

このオープニングゲームクリアの運命を握るのは…。

五人目 レムレス

彗星の魔導師、レムレスに託された！

レムレス「まさか僕の所まで来るとはね…。」

フェーリ「先輩…。」

レムレス「大丈夫、クリアして見せるさ！」

もし、この距離でハンターの目を出せば、4体のハンターがレムレスに襲いかかる！

レムレス「それじゃあ行くよ…。」

クリアか…ハンター放出か…！？

レムレス「やあ！」

トンッ！ころころ…。

オープニングゲームを…。

フェイト「お願い…。」

クリア…。

ころころ…。

レムレス「微妙だね…。」

できるか…！？

ころころ…。

インデックス「大丈夫だよね…。」

ころころ…ピタ…。

全員「！！」

サイコロの目は…。

「3」だ。

全員「やったあああああ！！！！！！！！！！」

レムレス「ふう〜…危ない危ない…。」

オープニングゲームクリア！

これで、逃走者たちに1分間の猶予が与えられた！

タイマー

「60」

カチ…。

「59」

逃走者たち「うわあー！！」

レミリア「クリアできてよかったわ…。」

スネーク「幸先がいいな…。」

逃走者たちはこの1分間、なるべくハンターボックスから遠くに逃げろ！

「42」

シエゾ「隠れる場所が…少ないな…。」

アリス「とりあえず…此处にいきましょう…。」

「30」

ハンター放出まで…あと30秒！

シャル「これ…きつい…！」

アミティ「えゝ！？隠れる場所が少ないよゝ！！」

「21」

なのは「もうすぐ…。」

サタン「此处で少し様子を見るか…。」

「15」

シグ「おおゝ…いい所…。」

「11」

スタッフ「ハンター放出まであと10秒近くです。」

ティアナ「えっ！？もうすぐ10秒！？」

ハンター放出まで…。

10！

9！

8！

7！

6！

1
!

2
!

3
!

4
!

5
!

プシュー！ガコン！

恐怖のゲームが、幕を開けた…。

アイク「始まった！」

シグナム「ハンターが放出されたか…。」

フェーリ「…走っているわね…此処から離れましょう…。」

シェゾ「ついに始まった…。」

クルーク「此処に隠れてく…。」

ウィッチ「ついに始まりましたわね…。」

魔法使いの少女の、ウィッチ。

ウィッチ「一人前になるためならこのくらいはクリアしますわよ！」

逃走成功を目指す！

当麻「始まりましたねえ…。」

3回行われた「僕の好きなアニメ&ゲームのキャラで逃走中！」のすべてに参加している逃走者の一人の上条当麻！

当麻「3回も出ていますからね…パターンとかは大体はわかってきましたよ…。」

アイク「もちろん目指すは逃走成功！」

こちらも3回すべてに参加しているアイク。

アイク「自首なんて最初から考えていない！最後まで逃げ切る！」

自首する気は、無いようだ…。

サタン「今は…1万円か…。」

ぷよ地獄を創造したボスらしい自称・闇の貴公子のサタン。

サタン「アルルとはぐれてしまったが…まあいい、そのうちにまた会えるだろう。」

果たして、その實力は！？

シェゾ「今は…此処か…。」

現在、城下町にいるシェゾ・ウイグイイ。

シェゾ「とりあえず周りの状況を把握しておこうか…。」

マリオ「ハンターはやっぱり怖いからな…。」

王の城付近にいるマリオ。

マリオ「逃げるルートを確保しておいた方がいいからな…。」

その彼の近くに、ハンター…。

マリオ「此処は…無理か…この先だな…。」

ハンター「…。」

マリオ「この先を曲がってこう行けばいいのか。」

ハンター「…!」

見つかった…。

マリオ「こつからはこうは…って来てる!!」

ハンターに見つかったマリオ、振り切れるのか!?

マリオ「速い速い速い！！！！うわあああ！！！！」

ポン

マリオ 確保 残り 34人

マリオ「ちょっと待てよ……いきなりかよ……嘘だろー！？」

スーパースターが開始早々、ゲームから、脱落…。

マリオ「うわあ……ルイージになんて言われるかな……」

アリス「夜だからハンター見えにくーピリリ！ピリリ！」な、何よ！見つかったちゃうじゃない！！」

ルイージ「えええー！？『王の城付近にてマリオ確保。残り34人。』って、兄さん早すぎるよー！」

アイク「え……まだ……始まって5分も立っていないぞ！？」

ハンターから逃げた時間に応じ、賞金を獲得できる、それが…。

『run for money逃走中』！！

リデル「わあゝ…お城が奇麗に光っていますゝ…。」

なのは「あつ、兵士さんたちだゝ…王国だゝ…。」

今回の舞台は、海に浮かぶとある王国！中世の建物が立ち並ぶこの王国には伝説の剣士が存在していたと言われる伝説がある。

広さは東京ドーム7個分。このエリアの中を34人の逃走者が、逃げ回る。

フラン「うわあ…どんどん賞金が上がっていくよ…。」

賞金は1秒100円ずつ上がり、ゲーム時間160分を逃げ切れば賞金96万円を獲得できる！！

フェーリ「自主…危なくなったらその選択肢も考えてあるわ…。運命にはそうした方がいいと出ているわ…。」

クルーク「最後まで行く気はないさ。いい金額になったら自首しようと思ってる。」

さらに、このゲームでは自首も可能！エリア内に設置されてる自主用電話ボックスから自首を申告することでゲームから離脱、それまでの賞金を獲得できる。

しかし、エリア内には4体のハンター。

ハンターに確保されればその時点で失格、賞金も、0。

ゲーム残り時間 158分30秒 残る逃走者 34人

オープニングゲーム（後書き）

今回一番長いかも…頑張った方です。

さっそくハンターによって確保者が出てしまった。

次回、王国に迫る危機…。

通達1（前書き）

すいません、エリアを追加します。

エリア追加

王の城、城下町に『町広場』を追加します。

町広場は他の所と比べると開けた場所でハンターに見つかりやすい。

ちなみに王の城と城下町の間に水路はありません。

城下町に『並木通り』を追加します。

並木通りはその名のとおり、道のわきに木が植えられています。

通達 1

はやて「いやあゝまさかまた出してもらえとはなあゝ。」

前々回もこの逃走中に参加した八神はやて。

はやて「前はアカンかったけど今回こそは逃げ切るでゝ。」

逃走成功を目指す。

シグナム「この逃走中に参加できるなんて…光荣だ。」

ヴォルケンリッターの将、シグナム！

シグナム「主はやてが参加したゲームだと聞いてな…どんなものか
気になっていたのだ。出さしていただいた以上は楽しまなければな
。」

シグ「うゝん…。」

現在、緑の森に隠れているシグ。

シグ「いい所まで行ったら自首しようかな…。僕そんなに行ける
とは思わないからな…。」

自首を狙っている。

霊夢「これが逃走中と言うものなのね…。」

幻想郷で一番強いと言われる巫女、博麗霊夢！

霊夢「外の世界ではこんなものがはやっているのね…。」

ルイージ「まさか兄さんが一番最初に捕まってしまうなんて…。」

先ほど確保されたマリオの弟、ルイージ。

ルイージ「兄さんの為にも絶対に逃げ切らないと…。」

そのルイージの近くに…。

ルルー「このあたりはちょっと入り組んでいるわね…。」

ルルーだ。

ルイージ「えーと…あつ、ねえ、ハンターいたそっちに？」

ルルー「いいえ、今のところは見かけていないわ。」

ルイージ「そう、ありがとう。」

ルル「兄みたいに捕まるんじゃないのよ！」

ルイージ「分かってるよ！」

アルル「このあたりは危ないかな…ちょっと見えすぎだし…。」

町広場にやってきた魔導師のタマゴ、アルル・ナジャ。

その近くにハンター…。

アルル「うん…あつ、ハンター！不味い不味い…。」

急いで建物の影に隠れる。

ハンター「…。」

アルル「…。」

ハンター「…。」

見つからなかったようだ…。

アルル「ふう…危ない危ない…でもシェゾとかサタンは大丈夫なのかな？」

シェゾ「此処は…水路沿いの道か…。」

水路沿いの道にやってきたシェゾ。向かう先に…。

サタン「…闇の魔導師…。」

サタンだ。

シェゾ「…！」

サタン「なぜ貴様がこんな所に…。」

シェゾ「それはこっちの台詞だ…。いいか、俺はお前よりは絶対に逃げてやる！」

サタン「その言葉、そっくり返させてもらおうか。」

シェゾ「ふん、せいぜい頑張るんだな。」

サタン「貴様こそ…。」

スタッフ「仲が悪いですね…。」

シェゾ「当たり前だ。あのおっさんとは二度と会いたくないな。」

サタン「あいつに負けるなど考えられん。」

フェーリ「それにしても…きれいなお城ね…。」

お城を眺めるフェーリ。

このお城には、この王国の国王がいる。

住民は平和にこの国で暮らしていた。

国王（演：新川）「ふふつ、今日も平和じゃな…。」

大臣（演：KAITO）「陛下、今日ものどかですね。」

国王（演：新川）「ああ、平和が一番じゃな…。」

そして、その影では…。

？「あんな国王にこの国は任せられない…この私が国王に就いてこの国の王になってやる…！」

謎の人物が、国王の座を狙っていた。

謎の人物は、王の城の最上階に出て、松明をささげた。

王の城から、煙が上がっている…。

そして、この煙がある者へのサインだった…。

船長（演：涼宮ハルヒ）「なるほど…次はあそこね…」

船員（演：キヨン）「あそこには「宝石の館」と言われるお宝がたくさんしまっている館があるそうです。」

船長（演：涼宮ハルヒ）「よし…お宝は全部、この海賊「パイレーツ」がすべていただくわ！」

海賊が、王国に接近する…。

そして、エリア内に逃走者の運命を分けるものが登場した…。

ピリリリ…ピリリリ…。

アイク「何だ？メール…『通達1』…なんだ…？」

レミリア「『エリア内に宝箱を設置した。』『宝箱…？』」

スバル「『宝箱の中には逃走に有利なアイテムが入っている。』」

レムレス「『しかし、ひとつだけ開けると大変な物が入っている。』
大変なもの…？」

アルル「『宝箱は残り120分までしかエリアに設置されない。そして宝箱は6個しかない。早い者勝ちだ。』」

インデックス「アイテムだって！」

通達1 アイテムを入手せよ！

エリア内に宝箱が設置された。

中には逃走に有利なアイテムが入っている。

しかし、ひとつだけ、開けると大変なことになるアイテムが入っている。

ちなみに宝箱の位置は逃走者たちには伝えられていない。

宝箱は残り120分になると消滅する。

数は6個のみ。早い者勝ちだ。

魔理沙「アイテムか…興味あるな、取りに行ってみるか！」

サタン「有利になるんだったら行ってみる価値はあるな…。」

ドラコ「よし、取りに行くぞー！」

フェイト「行ってみようか…。」

アイテムを取りに行く逃走者たち！

宝箱は残り120分になると消滅する。それまでに取りに行かないといけない！

当麻「どうしよっかな…だってさ、近くにいる人がアイテム取っ

てしまったらもうそこで終わりなんだろう？」

ティアナ「行くわけ無いでしょう！？絶対にこんなのは信じない！」

スネーク「この「開けると大変になる物」が気になるな……。」

なのは「開けると大変な物……ハンター？」

サタン「！こんな所にあつたか……。」

最初に宝箱を見つけたのはサタン。

サタン「さてと、中身は……。」

ガタッ

サタン「これは……一体なんだ？」

中に入っていたのは黒い銃だった。

サタン「何々……『冷凍銃』……。」

中に入っていたのは『冷凍銃』。これを使えばハンター1体をゲームから除外できる。

サタン「いいものが入っていたな。よし、じゃあハンターを除外しに行くか！」

サタン、ハンターを除外するためにハンターを探しに向かう。

アイク「これが宝箱か…？」

アイクも宝箱を見つけた。

アイク「一体何が入っているんだ？」

ガタッ

アイク「…？捕獲網…？」

中に入っていたのは『捕獲網』。これをハンターに向けて使えばハンターの動きを1分間止めることができる。

アイク「よし！ピンチの時に役に立つな！逃走成功できそうだ！」

捕獲網を手に入れたアイク。心強い物を手に入れた。

ルイージ「おっ！これがそうか！」

ルイージが、サタンやアイクが見つけた宝箱よりもひときわ大きい宝箱を見つけた。

ルイージ「でもこんなに大きかったら何かいやなことがあるそうだな…まあいいや、開けてみるか。」

果たして、その中身は？

ルイージ「よつと。」

ガタッ

ハンター「！」

ルイージ「ぎょえ〜！？」

なんと、中に入っていたのは『ハンター』！「開けたら大変になる物」とはハンターのことだったのだ！

至近距離のため、逃げれるわけもなく…。

ルイージ「ひゃああ〜！！！」

ポン

ルイージ 確保 残り 33人

ルイージ「えゝ中にハンターが入ってたのゝ!? あんなのアリゝ!」

確保されてしまった。兄弟二人とも牢獄行きだゝ。

フラン「『港付近にてルイージ確保。残り33人。』」

スネーク「おいおいあいつら何やってんだよゝ。」

アイク「『そして、ルイージがハンターが入っていた宝箱を開けてしまったためハンター1体追加。合計5体となった。』 ええゝ!? ふざけんなよ!!」

当麻「いらんことしてくれたなゝ。」

インデックス「あ、でもこれって逆に言えばこれから開けるすべての宝箱は安全ってことなんだ。」

十六夜「ちょっと取りに行ってみますね。」

ラフィーナ「何やってんのよゝ。」

メールを見て文句を言うラフィーナ。

その近くに…。

ハンター「…。」

ハンター…。

ラフィーナ「もう…！ハンターいますわ…。」

ハンターを見つけたラフィーナ。ハンターもラフィーナの姿に気付いた。

ラフィーナ「わたくしになめてかかりますと痛い目にあいますわよ！」

町の角を使い、ハンターの視界から消える。

ハンター「…？」

見失ったようだ…。

ラフィーナ「なんとか行けましたわ…。」

なのは「これが宝箱…？」

宝箱を見つけたのは。そこに…。

シェゾ「ほう…これが宝箱か…。」

シェゾがやって来た。

なのは「あ、シェゾ君。」

シェゾ「その中身は一体何なんだ？」

なのは「これから開ける所なんだよ。ちょっと開けてみるね…。」

一体何が入っているのか？

なのは「何かな…。」

ガタッ

なのは「…？地図？地図が入っていたよ？」

中に入っていたのは『秘密の地図』。どこの地図かは不明だ。

シェゾ「…おい…。」

なのは「え、何？」

シエゾ「お前が…欲しい！」

なのは「えええええー！！！？？」

シエゾ「…あつ、「お前の持っている地図が欲しい」と、言おうとしたが…間違えてしまった…。」

なのは「あ、そうなの…はい…。」

シエゾ「…なるほど…。」

なのは「何かわかった？」

シエゾ「どうやら今逃げているエリアとは違う場所らしい。地形を見る限り、手渡された地図の地形と合わないな。そして此処に印がある。おそらくここに何かあるんだろう。」

なのは「そうなの…でもこの地図だろう…。」

シエゾ「さあな。」

なのは「所であの発言は何？」

シエゾ「ああ…俺は気が高くなると言葉を間違えてしまうんだ…。だからいつも勘違いされてしまうんだ…。」

なのは「思いつきし間違えているよね…。」

フェイト「！なのはが誰かのものになるような台詞が聞こえて来たような…。」

スタッフ「気のせいじゃないですか？」

フェイト「うん…そうかも…。」

次回、逃走者に危機が迫る…。

通達1（後書き）

初めて挑んだドラマパート！

やっぱりグダグダになりました！

そしてシェゾはいつも通りのことを言っています。

次回、ミッション発動！

MISSION? 1 (前書き)

シェゾ「おい作者。」

あ、
シエゾ。
何？

シェゾ「前はよく俺に恥をかかせてくれたな…（怒）。」

え、いや、ちよつと待てよシエゾ君！

シェゾ「待つと言われて待つ者はいない……」

[illegible]

シェゾ「ふん、自分の罪の重さを知るが良い。」

ウィッチ「作者がやられたので私がコールをしますわ。では逃走中、はじまりますわ。あ、あと……。」

「シェゾ、なんだ？」

ウィッチ「前のネタが結構評判良くていろいろな作者さんから感想が来ていましたわよ。」

「シェゾ、何い!？」

MISSION? 1

現在のゲーム残り時間 15分11秒。

残る逃走者 33人

現在2人の逃走者が確保され、残るは33人となった。

果たして、逃げ切るものは現れるのか!?

フラン「そう言えばアイテムどうなったのかしら...?」

現在宝箱は4つ開けられており残るは2個となっている。

フラン「でもどこにあるかわからないし...。」

シェゾ「くそっ...また言ってしまった。」

現在宝石の館付近にやってきたシェゾ。

シェゾ「今度からは気をつけないとな...。」

と、そこに...。

ハンター「…。」

ハンターだ…。

シエゾ「…！ハンターか…。」

いち早くハンターに気付いたシエゾ。

ハンター「…。」

どうやらハンターには気づかれていない。

シエゾ「不味いな…距離を取っておくか…。」

急いで距離を取る。

ハンター「…。」

無事、気付かれなかったようだ。

シエゾ「あぶねえ…。」

この王国に海賊が向かっている中…国王は…。

国王（演：新川）「ちよつと覗いてみますか…。」

呑気に住民たちのことを観察していた。

国王（演：新川）「今日も平和ですね…？あれは何でしょうか…？」

国王が見つめる先には緑の森のパーティー広場に置かれた謎の木箱…。

国王（演：新川）「不思議な物ですね…。」

そして…。

今宵「こっちの設置は完了したな。後は…これだけか…。」

そして、町広場に3個のハンターボックスが出現した…。

今宵「しかし今回の逃走中…自首の方法を少し変えた方がよかったな…。」

そして、此処は別の場所…。

？「おい、ハンターの機密ファイルはコピーできそうか？」

？「いえ、ロックが掛けられていて、今のところは…。」

？「そうか…あのハンター機密ファイルは我々の計画に必要なのだ。一刻も早くコピーしろ。」

？「は、はい！」

？「しかし…コピーしたとなると此処の居場所を探られてしまう…」

人質が必要だな…そうだな…やつの逃走中にすべて出ている逃走者
なんかが適任か…。」

謎の影が動いていた…。

ピリリリ…ピリリリ…。

なのは「何々メール？」

スネーク「ミッション1…来たか…。」

アルル「『エリア内に3つのハンターボックスを設置した。』え！
？」

当麻「『残り140分になるとエリアに解き放たれ、その数は最大
で9体となる。』これ以上増えたら逃げ切るやついないんじゃない
か！？」

ドラコ「『放出を阻止するには緑の森のパーティー広場に設置され
た木箱の中に入っている銅貨を使い、ハンターボックスを封印しな
ければならない。』銅貨？」

ミッション1 ハンター放出を阻止せよ！

エリア内の王の城、並木通り、町広場にハンターボックスが設置さ
れた。

ハンターは残り140分になるとエリアに解き放たれる。
ハンターボックスを封印するにはパーティー広場に設置された木箱の中に入っている銅貨をハンターボックスにセットし、封印しなければならぬ。

なのは「ミッション…もちろん行くよ！」

当麻「行ってみますかねえ…。」

アルル「よし、行こう！」

アミティ「行ってみるよ！」

魔理沙「ハンター増やしたくないからな！行くぜ！」

シグナム「おつ、パーティー広場…近いぞ！」

現在ミッションに向かうのはこの6人。

シグ「ミッション？興味無い…。」

レミリア「まだ大分残っている人数多いし…任せるわ…。」

ヴィータ「はあミッション？んなもん行くわけねえだろ！あんなもんハンターに捕まるようなもんだろ！此処は任せる。だってリーダーとか美琴ってやつとかミッションに積極的なやつがたくさん残っ

てるからな！あいつらがやってくれんだろ…。」

美琴「緑の森…こつちね！」

ミッションに向かう御坂。

ハンター「…。」

しかし…ハンターが接近…。

美琴「早く…！ハンター！」

ハンター「…！」

見つかってしまった…。

美琴「速い…。」

驚異の身体能力で逃げる御坂。その逃げる先に…。

ルルー「あ、あの子…。」

ルルーだ。

美琴「ハンター来てるわよ！」

ルルー「ええ！？ちよつと何してんのよ！」

巻き添えを食らい、逃げるルルー。

美琴「はあ…はあ…。」

ルルー「ちよ、先に行かないでよ！」

御坂がルルーを追い抜き、ハンターの標的がルルーに変わった！

ルルー「速すぎるわよこいつ！なっ！？」

ポン

ルルー 確保 残り 32人

ルルー「きいゝ！あの小娘！私を追い抜くなんて！許さないんだから！」

巻き添えを食らった…。

美琴「はあ…はあ…大丈夫かしら…。」

フェイト「確保情報…。『花園の丘にてルルー確保。』」

シャル「『残り32人。』…また捕まったわ…。」

サタン「ルルーが捕まってしまったか…。」

シエゾ「何！？あいつ結構足速いぞ…それでも捕まってしまうとは…。」

美琴「うわ…悪いことしたな…。」

シグナム「よし、パーティー広場に着いたぞ！」

一番乗りでパーティー広場に付いたのはシグナム。

シグナム「木箱木箱…これが…。」

ガタッ

シグナム「これをハンターボックスにはめて封印すればいいんだな。」

シグナム、ハンター放出を防ぐため、ミッションに向かう！

シグ「むう…。」

現在、緑の森に隠れているシグ。

スタッフ「ミッションにはいかないんですか？」

シグ「ミッションは…！」

シグの目の前をハンターが通り過ぎた。

シグ「たぶん今動いていたら捕まってたよ。だから任せる。」

ミッションに行く様子は無い…。

十六夜「緑の森…こっちですね…。」

ミッションに向かう十六夜。

十六夜「ハンターの放出は何としても阻止しませんと…。」

スバル「なのはさんもミッションに行っていると思うんでミッション行きます！」

こちらにもミッションに向かうスバル・ナカジマ。

スタッフ「何で行くんですか？」

スバル「何もせずに捕まるよりは何かして捕まった方が良いから…。」

サタン「何だ何だ？ハンターっていざ探すと全然いないな…。」

冷凍銃を獲得しているサタン。しかし、ハンターが見つからない。

サタン「どこにいるのだ…。」

リデル「ハンター怖いです…。」

ハンターにビビるリデル。その近くに…。

ハンター「…。」

ハンター…。

リデル「…あつ、ハンターです！」

ハンター「…！」

見つかった…。

リデル「きゃ、きゃああ〜！」

逃げる先に…。

アルル「うわっ、サタン！何すごい物持っているの？」

サタン「おおー！アルルか！これはな、冷凍銃と言ってな…。」

アルルとサタンだ…。

リデル「た、助けてくださーい！」

アルル「あ、ハンター！」

サタン「おお、ハンターが来たか…こっちに來いハンター！」

リデルがサタンとアルルを追い抜く。

アルル「うわーハンター來てるー！」

サタン「ふっ、お前、今すぐに此処から消える。さもないと…。」

ハンター「…。」

サタン「ぶよ地獄行きだ！喰らえ！」

プシュー！

ハンター1体冷凍　ハンター4体

サタン「ふう…どうだアルル、私がハンターを凍らせた勇姿はどう

だ？」

アルル「ありがとサタンー！」

サタン「あつ、行ってしまったか…。」

リデル「あ、あの…。」

サタン「何だ？」

リデル「助けに来てありがとうございます！お兄様！！」

サタン「お、お兄様だと！？」

リデル「え、えへへ…。」

サタン「その呼び方、むずかゆいのだが…まあ今回は許してやる。」

リデル「あ、ありがとございます。」

サタン「でも次はやめてくれないか？」

リデル「分かりました〜お兄様！あつ…。」

サタン「あのな…。」

インデックス「仲いいな〜…。」

フラン「何？通達…。」

フェイト「『サタンが使った冷凍銃によりハンター1体が除外された。』」

ドラコ「え！？あいつやるな〜！」

アリス「これで少しは楽になる…。」

シグナム「これがハンターボックスか…。」

並木通りのハンターボックスにたどり着いたシグナム。

シグナム「見た所此処にはめればいいんだな？」

そして、手に持っている銅貨をはめる。

シグナム「よし、あとはこうして…。」

ガシャン！

ハンターボックス封印 残り2個

シグナム「よし、封印したぞ！」

シグナムによってハンターボックスがひとつ封印された。

現在封印されてないのは2個。

現在の残り時間は145分21秒。

果たして、すべて封印されるのか！？

MISSION? 1 (後書き)

なのは「サタン目立ってるの。」

シェゾ「あのおっさん目立ってるな…。」

フラン「目立ってるね〜。」

MISSION? 2 (前書き)

すいません。

吊り橋じゃなくて跳ね橋でした。

謝っておきます。

MISSION? 2

エリア内にハンターボックスが設置された。

残り140分までにハンターボックスを封印しなければ、ハンターが解き放たれる。

現在シグナムが並木通りのハンターボックスを封印し、残るは2個。

果たして、すべてクリアできるのか!?

ウィッチ「誰が行ってるんですの?」

現在神秘の噴水付近にいるウィッチ。

ウィッチ「早く誰が行ってくれませんとハンターが出てしまいますわ!」

自分はミッションに行く気はない…。

魔理沙「パーティー広場着いたぜ!」

パーティー広場に着いた霧雨。

魔理沙「木箱はこれか！」

そして、木箱の中の銅貨を取る。

霧雨魔理沙 銅貨獲得

魔理沙「よっしゃー！ミッションクリアしてやるぜ！」

ミッションに闘志を燃やす。

フェーリ「先輩は行ってるのかしら…。」

花園の丘にいるフェーリ。

フェーリ「一回電話してみるワ。」

ピリリリ…。

レムレス『やあフェーリ。一体どうしたんだい？』

フェーリ「あの…先輩はミッションに行っているんですか？」

レムレス『そのことだけど…今ハンターが近くにいて動けないんだ。だから行きたくても行けないんだ。』

フェーリ「そ、そうなんですか…。」

レムレス『近くにいるハンターがどこかに行ったら僕もハンターに行こうと思うんだ。』

フェーリ「そ、そうなんですか…先輩頑張ってください！」

レムレス『うん、フェーリも頑張ってね！』

ピッ！

フェーリ「…先輩のためにも頑張るワ…。」

フェーリ、ミッションに向かう。

レムレス「うーん…ハンター中々行かないなあ…。」

レムレスはハンターに動きを制限されていた。

十六夜「着きました…。」

十六夜も銅貨を取りにきた。

十六夜「これですね…。」

十六夜咲夜 銅貨獲得

十六夜「早く行きませんか…。時間がありません…。」

はやて「ミッションは行動力のある人が行ってると思うんやけどな…。」

現在王の城にいる八神。

はやて「いまさら行っても遅いと思うし…任せようか…。」

現在残り時間は142分01秒。はやてのいる位置からパーティー広場に向かっても間に合わない。

当麻「此処がそうか…。」

パーティー広場にやってきた当麻。

当麻「これか!」

上条当麻 銅貨獲得

当麻「やべえ!時間がねえ!あと2分もねえ!」

果たして、間に合うのか!?

ドラコ「誰が行ってるのかな？」

ミッションに他人任せなドラコ。

ドラコ「早く封印してくれないかな？」

しかし…。

ハンター「…。」

その近くに、ハンター…。

ドラコ「電話して行かそうかな？」

ハンター「…！」

見つけた…。

ドラコ「えーと…うわ！来てる…！」

半竜半人のドラコケンタウロス。果たして振り切れるのか！？

ドラコ「うわああ…！速いよ…！」

ポン

ドラコケンタウロス 確保 残り 31人

ドラコ「うへえ…：ハンター速すぎるよ…：」。

魔理沙「ハンターボックスに着いたぜ！」

町広場のハンターボックスに着いた霧雨。

魔理沙「此処にセットして…：おりゃあ！！」

ガシャン！

ハンターボックス封印 残り2個

魔理沙「やったぜ！」

残るは王の城のハンターボックスだけ…。

現在向かっているのは十六夜と上条だが近いのは十六夜の方！

その距離、200メートル！

果たして間に合うのか！？

ハンター放出まで1分…。

十六夜「はあ…はあ…。」

当麻「やばいな…今行っても無理か…。」

上条、ミッションを諦めた。

十六夜「間に合うのでしょうか…。」

ハンター放出まで30秒を切った！

十六夜「…ハンターいませんね…。」

フラン「誰が行ってるのかな？」

アリス「不味い…もうすぐ出放出だよ…。」

ハンター放出まであと20秒。

十六夜「見えてきました！」

ハンターボックスに近づいてきた十六夜。

なのは「…あつ…不味い…。」

ヴィータ「誰か行つてねえのか？」

ハンター放出まで10…。

9…。

8…。

7…。

6…。

5…。

十六夜「着いた！セットして…。」

4…。

十六夜「せーのー!」

ガシャン!

ハンターボックス封印。 MISSION CLEAR

十六夜「や、やりました…。」

ピリリ!ピリリ!

リデル「メールです…。」

フラン「『シグナム、霧雨魔理沙、十六夜咲夜の活躍により、ハンター封印、放出は無し。』」

レミリア「やってくれたのね…。」

霊夢「魔理沙すごいわね…。」

魔理沙「へっへーん!どんなもんだぜ!」

シャル「皆さんすごいですね…。」

ヴィータ「ほらな！行ってくれる奴がいただろ？こつゆつやつらに任せとけばいいんだよ。」

ミッションに全く無関心なヴィータ。

ヴィータ「知らない間にクリアしてくれるからいいもんだよなあ。」

インデックス「…！ハンター…。」

ハンターを見つけたインデックス。

インデックス「離れとこ…。」

その場を離れる…。

インデックス「ふう…危ない危ない…。」

その先に…。

魔理沙「ミッションをクリアすると気分が良いな…。」

ミッションに貢献した霧雨。

インデックス「！きりさめだったっけ？」

魔理沙「おう！そうだぜ？」

インデックス「ミッションクリアできるなんてすごいね。」

魔理沙「ま、このぐらい行けるぜ！」

インデックス「へへ。」

ミッション？が終了し、残る逃走者は31人となった。

しかし次回、逃走者たちにまた別の恐怖が襲う…。

MISSION? 2 (後書き)

ハンター放出の危機を逃れた逃走者たち。

しかし次回、逃走者にまた新たな恐怖が…!?

逃走者に新たな危機！！ MISSION? 1（前書き）

ミッション？を無事クリアした逃走者たち。

しかし、また新たな危機が！？

逃走者に新たなる危機！！ MISSION？1

スバル「ミッションに参加できなかったのが悔しいな…。」

先ほどのミッションで活躍できなかったスバル。

スバル「次のミッションは絶対に行くぞ！」

シグ「おお…虫だ…。」

緑の森で未だに隠れているシグ。

シグ「かつこいいな…！」

しかし、ハンターを見つけた。

シグ「不味い…。」

身を隠すシグ。

ハンター「…。」

シグ「…。」

見つからなかったようだ…。

シグ「あ、危ない…。」

ティアナ「みんなよくやってくれているわね…。」

花園の丘の風車の陰に隠れるティアナ。

ティアナ「でも信用できない…。」

ピリリ！ピリリ！

魔理沙「ん？アリスからだぜ？」

逃走者同士の通話は可能。

アリス『魔理沙！すごいじゃん！メールに名前載ってたよ！』

魔理沙「ああ…確かミッションをクリアしたからだな！」

アリス『へえー…すごい…』

魔理沙「まあお互い頑張ろうな！」

アリス『うん！じゃあねー！』

ピッ！

アリス「魔理沙頑張ってるなあ…。」

シグナム「ミッション…行けたな…。」

先ほどのミッションに貢献したシグナム。

シグナム「次のミッションも頑張るぞ。」

そのころ、王国では…。

大臣（演：KAITO）「大変です！王様！」

国王（演：新川）「な、何事だ！？」

大臣（演：KAITO）「現在この国に海賊が接近中です！」

国王（演：新川）「な、何だと！？」

大臣（演：KAITO）「さらにこの国に海賊の接近がいたとの情報も…。」

国王（演：新川）「ううむ…。その海賊についての情報は無いのか？」

大臣（演：KAITO）「あ、はい！右腕に碇の模様があると…。」

国王（演：新川）「そうか…。」

大臣（演：KAITO）「どうしましょうか…。」

国王（演：新川）「怪しい奴はひとつとらえろ！そして海賊のやつらも見つけたらひとつとらえるのだ！」

大臣（演：KAITO）「は、ははー！！」

国王（演：新川）「ううむ…海賊か…。」

大臣（演：KAITO）「王様ー！」

国王（演：新川）「なんじゃ！？戻ってきて…。」

大臣（演：KAITO）「この国で怪しい奴らの目撃情報が…。」

国王（演：新川）「なるほど…今すぐに掲示板にそのやつらの顔の絵を張り、そのやつらの顔を書いた紙を国中に撒くのだ！」

大臣（演：KAITO）「は、ははー！！」

バラバラバラ…。

民衆「何だ何だ！？」

住民１「この国に怪しい奴らが逃走中！？」

住民２「見つけた者は王の城まで！？」

大臣（演：KAITO）「怪しい奴はすぐにひつとらえるんだ！」

兵士たち「ははー！！」

この出来事が逃走者たちに新たな試練となつて降りかかる！

はやて「…え？何々？」

美琴「騎士たち？」

リデル「何か騒がしいです…。」

フェーリ「…何？王の城から紙が…。」

シグナム「怪しい奴らがこの国で逃走中！？」

サタン「一体何だこれは！？」

レミリア「一体何なのよ…。」

ピリリ…ピリリ…。

レミリア「何？メール？」

当麻「ミッション2！来た来た…。」

霊夢「『現在この国に海賊が接近中だ。』海賊？」

クルーク「この国で怪しい奴らの目撃情報が国王にとどいたため、エリアに50人の兵士が放たれた。」へ、兵士？」

フラン「兵士は君たちを見つけると笛を吹き、笛の音を聞きつけたハンターが確保に向かう。」うわあ……。」

ティアナ「さらに、君たちの顔が書かれた紙が国中に撒かれたため、住民が君たちを見つけると、騒ぎ出し、その騒ぎを聞きつけたハンターが確保に向かう。」

シェゾ「疑いを晴らすには王の城にいる王国と大臣に右腕を見せなければならぬ。」

アリス「えーじゃ絶対に動かなきゃいけないってことなんだ。」

ヴィータ「めんどくせー！」

ミッション2 疑いを晴らせ！

国王に海賊の情報が入ったため、怪しい者を探すためにエリアに50人の兵士と逃走者たちの顔が書かれた紙がばらまかれた。

兵士は、逃走者たちを見つけると笛を吹き、笛の音を聞きつけたハンターが確保に向かう。

そして、国の住民が逃走者たちを見つけると、騒ぎ出し、その騒ぎを聞きつけたハンターが確保に向かう。

疑いを晴らすには王の城にいる国王と大臣に右腕を見せなければならない。

レムレス「よし…じゃあ行こうか…。」

ヴィータ「めんどくせえ…。」

フェーリ「…！いるじゃないの…。」

当麻「さすがにこれは…。」

アルル「…！兵士だ…不味いよ…動けないよ…。」

ウィッチ「早く行きませんか…。」

王の城に向かうウィッチ。だがそこに…。

兵士「…！」

兵士だ…。

兵士「いたぞー！」

ピーッ！！

ウィッチ「不味いですわ！見つかってしまいましたわ！」

ハンター「…！」

笛の音を聞きつけたハンターが確保に向かう！

そして…。

住民1「こ、この人よ！」

住民2「こいつだー！」

ウィッチ「騒ぐなですわ！」

住民に、顔を見られた…。

ハンター「…。」

ウィッチ「は、ハンターですわ！」

ハンターに見つかった…。

ウィッチ「は、速すぎますわよ！…きゃああ！…！」

ポン

ウィッチ 確保 残り 30人

ウィッチ「もう…どうしろってのよ…ダメだこりゃ…。」

アリス「兵士、住民の通報により、ウィッチ確保。残り30人。」

クルーク「さつそく捕まったよ…。」

シェゾ「動く和不味いな…。」

ヴィータ「ほらこいつ！ミッションに動いたから捕まったんだよ！
ミッションに動いて捕まるなんてアホなやつだなあ！」

はやて「おっ！此処から近いやん！」

偶然、王の城にいたはやて。

黒子「此処からあそこに行けば…。」

白井も同じく王の城にいたようだ。

はやて「あっ！なあ王ってどこにおんねん！？」

黒子「そんなのわかりませんの！」

向かう先に…。

国王（演：新川）「…。」

国王と大臣だ…。

黒子「！もしかして、あの人じゃありませんの！？」

はやて「そうや！多分あの人や！！」

兵士1「…！何者だ、お前ら！」

はやて「あつ、私ら怪しいものじゃないんで…。」

黒子「あら？この人どこかで…。」

はやて「あつ！確かリンク君ちゃう？んでクロノ君、何してんの？」

兵士1（演：リンク）「リンク？誰だそれは？」

兵士2（演：クロノ・ハラウオン）「私たちは王をお守りする兵士だ！」

はやて「そ、そうなんかいな…。」

国王（演：新川）「で、何しに来たのじゃ？」

はやて「あ、私たち怪しいものじゃないんで…。」

国王（演：新川）「ならば右腕を見せるがよい。」

二人は右腕を見せる…。

国王（演：新川）「…ふうむ…どうやら本当に違うようだな。」

大臣（演：KAITO）「そのようですね。」

国王（演：新川）「疑って悪かった。この免罪符を持っていくがい。」

黒子「免罪符？」

国王（演：新川）「これを持っていれば兵士や住民に疑われることもなくなるだろう。」

黒子「分かりましたの。」

はやて「ありがとな。」

八神はやて 白井黒子 免罪符獲得

はやて「いやあ…よかったわ。」

黒子「これで少しは安心ですわね。」

はやて「…！兵士！」

二人は国王からもらった免罪符を兵士に見せる。

兵士「…疑ってすまなかった。」

はやて「おお…免罪符すごいなあ…。」

レムレス「急がないと…。」

フェイト「やだよ…捕まりたくないよ…。」

ラフィーナ「…どこから行けばいいのよ…。」

逃走者たちに降り注いだミッション2。

それによりさっそく一人が捕まってしまった。

果たして、逃走者たちはこのミッションを無事にクリアできるのか！？

現在	残り時間	134分48秒	残る逃走者	30人
----	------	---------	-------	-----

逃走者に新たな危機！！ MISSION? 1（後書き）

このミッションの一番難しい所は住民と兵士に見つからずに王の城に向かうことです。

王の城付近にいた人はいいんですがかなり離れた場所にいる人は危険度がかなり高まります。

こう考えると緑の森と花園の丘にいた逃走者は不利かもしれません。

MISSION? 2 (前書き)

果たして逃走者たちはミッションをクリアできるのか!?!…ってか
宝箱のこと忘れてた!

逃走者たち「おい。」

MISSION? 2

疑いをかけられた逃走者たち。

疑いを晴らすには王の城の前にいる国王と大臣に右腕を見せなければならぬ。

現在2人がミッションをクリア。

果たして全員クリアできるのか!?

当麻「何で俺たちが疑いをかけられたんだ...?」

アミティ「王の城に行けばいいんだね!」

シェゾ「くっそ...」。

サタン「...!あれだな...」。

王の城に着いたサタン。

サタン「お前がこの国の王か?」

国王（演：新川）「!?!何者だお前は!?!海賊の仲間か!?!」

サタン「いや、違うな。」

大臣（演：KAITO）「なら右腕を見せて下さい。」

サタン「これでいいか？」

国王（演：新川）「…違うようだな…。疑って悪かった。これを持っていけば騒がれることは無くなるだろう。」

サタン「ふっ、当たり前だ。」

サタン 免罪符獲得

サタン「この城の近くにいてよかったな。」

シェゾ「ここか！」

フェーリ「着いたわ…。」

なのは「よかった…。」

シェゾ、フェーリ、なのはの3人が王の城に着いた。

国王（演：新川）「なんだね君たちは？」

フェーリ「私たちは怪しいものじゃないワ…。」

シェゾ「ああ、それを証明しに来た！」

大臣（演：KAITO）「だったら右腕を見せて下さい。」

フェーリ「これでいい…？」

なのは「ほら。」

シェゾ「ほらよ。」

国王（演：新川）「…どうやら違つみたいだな…。ならこれを持って行きなさい。」

シェゾ・ウイグイィ フェーリ 高町なのは 免罪符獲得

なのは「ありがとう！」

シェゾ「よしっ！クリアしたぞ！」

エリアには50人の兵士と逃走者たちを疑う住民たち。もちろん見つかからないように移動するのは難しく…。

住民1「この人！怪しい人よ！」

フラン「何よ!」

フランが…。

住民1「こいつだ!」

住民2「誰かー!」

スバル「怪しいものじゃないってば!」

スバルが…。

兵士「見つけたぞー!」

ピーッ!

ラフィーナ「笛を吹かないでほしいですわ!」

ラフィーナが…。

兵士「こいつだー!」

ピーッ!

霊夢「な、何よ!」

霊夢が見つかったている…。

アイク「くっそ…。」

現在建物の影に隠れているアイク。

アイク「…！ハンター…。」

ハンターを見つけた…。

アイク「来るな…来るな…。」

ハンター「…。」

見つからなかったようだ…。

アイク「マジあぶねえ…。」

その後…。

アルル「よかったよ…。」

フェイト「これでいいんだ…。でも何でお兄ちゃんが？」

レムレス「まずは一安心だね。」

アルル、フェイト、レムレスがミッションをクリア。

アルル・ナジャ フェイト・T・ハラウオン レムレス 免罪符獲得

ティアナ「中々移動できない…。」

未だに移動できていないティアナ。

ティアナ「住民が…邪魔で…あつ！そうだ！」

何かを思いついたようだ。

ティアナ「住民は顔しか見てないんだから…。」

アリス「中々移動できないじゃん…。」

城下町にいるアリス。そこに…。

兵士「…！」

兵士…。

ピーッ！

アリス「えっ！？えっ！？」

見つかってしまった…。

アリス「不味い！早く移動しないと…。」

しかし…。

ハンター「！」

その笛の音をハンターが聞きつけた…。

アリス「ハンター来てないかな…。」

ハンター「…。」

アリス「不味い！来てる！」

ハンターを見つけ、一目散に逃げるアリス。しかし、逃げ切れるわけもなく…。

アリス「キャアアアア！！！」

ポン

アリス「もう…終わり…？」

兵士と住民に見つかればその音を聞きつけたハンターが確保へと向かう。

アリス・マーガトロイド 確保 残り 29人

レミリア「『城下町でアリス・マーガトロイド確保。残り29人。』」

美琴「見つかってるのね…。」

シャマル「王の城に着きました…。」

王の城に来たシャマル。

シャマル「…あれ？何で…。」

兵士2（演：クロノ・ハラウオン）「何だ？どうした？」

シャマル「い、いや…。」

国王（演：新川）「何しに来たんだ？」

シャマル「あ、私怪しいものじゃないんで…。」

国王（演：新川）「なら右腕を見せろ。」

シャマル「はい…。」

大臣（演：KAITO）「…この人も違うようですね…。」

国王（演：新川）「そうか…ならこれを持っていくがよい。」

シャマル「ありがとうございます。」

シャマル 免罪符獲得

現在、免罪符を獲得したのは…八神はやて、白井黒子、サタン、シエゾ・ウィグイイ、フェーリ、高町なのは、アルル・ナジャ、フェイト・T・ハラウオン、レムレス、シャマルの10人。

そして、クリアしていないのは…シグナム、ヴィータ、スバル・ナカジマ、ティアナ・ランスター、スネーク、アイク、博麗霊夢、霧雨魔理沙、十六夜咲夜、レミリア・スカーレット、フランドール・スカーレット、上条当麻、インデックス、御坂美琴、アミティ、シグ、ラフィーナ、リデル、クルークの19人。

果たして全員クリアできるのか！？

残り時間128分23秒 残る逃走者29人

MISSION? 2 (後書き)

アイテム誰が取るかなあ…？

MISSION? 3 (前書き)

ミッション2…まだまだ続きます。

ってかいつ終わるのやら…。

MISSION? 3

逃走者全員に海賊の疑いがかけられた。

疑いを晴らすには王の城にいる国王と大臣に右腕を見せなければいけない。

現在10人がクリア。

クリアできていないのは19人。

果たして全員クリアできるのか!?

当麻「…やべっ! 住民いた!」

住民を見つけた上条。

当麻「中々移動できねえよ…。」

動きを制限されている。

クルーク「うゝ…動くかゝ…。」

しぶしぶ移動を開始するクルーク。

クルーク「何で僕らが疑いをかけられないといけないのさ…。」

スネーク「此処からどう移動するか…。」

慎重に行動するスネーク。

スネーク「見つかったらお終いだからな…。」

その近くに…。

リデル「うっ…人がいます…。」

リデルだ。

リデル「はう！？えつと…スネークさんですか？こんな所で背を低くして何をしているんですか…？」

スネーク「ああ。ハンターに見つからないように背を低くして行動しているんだ。」

リデル「そうなんですか…。」

そこに…。

兵士「…！」

兵士が接近…。

ピーッ！

リデル「きゃああー！！」

スネーク「不味い！逃げるぞ！」

バラバラに逃げる二人。

ハンター「…！」

近くにいたハンターが、笛の音を聞きつけた。

リデル「不味いです…！」

スネーク「ハンターいるのか…！？」

ハンター「…！」

ハンターに見つかってしまったのは…。

リデル「…！ハンターです…！」

リデルだ…。

リデル「キャアアー！！」

ポン

リデル 確保 残り 28人

リデル「うう…残念です…。」

スネーク「はあ…はあ…！」

スネークは偶然にも王の城に着いた。

国王（演：新川）「！なんだね君は？」

スネーク「俺は怪しいものじゃない。」

大臣（演：KAITO）「ならば右腕を見せて下さい。」

スネーク「こうか？」

国王（演：新川）「…どうやら君も違うようだな…分かった。これを持っていくがよい。」

スネーク 免罪符獲得

スネーク「ふう…なんとか疑いは晴らせたな。しかし…大丈夫なの

か…？」

アルル「あつ！『リデル確保。残り28人。』だつて…。」

スネーク「あの後捕まったか…。」

レムレス「皆クリアできているのかな…？」

他の逃走者たちを心配するレムレス。

レムレス「…？これは…。」

レムレスが見つけたのは…。

レムレス「宝箱…あつ、通達の…。」

宝箱だ。この宝箱は通達1の宝箱である。

レムレス「もうすぐ120分だし…取っておくか。」

その中身は…。

ガタッ

レムレス「…黒い…サングラス？」

中に入っていたのは『無敵サングラス』。これを使えば1分間、ハ
ンターに追われなくなる。

レムレス「これはラッキーだね。さっそくもらっておこうかな。」

残る宝箱は1個！

シグナム「これは…。」

その宝箱をシグナムが見つけた。

シグナム「何だろう…。」

その中身は一体…。

ガタッ

シグナム「これは…双眼鏡？」

中に入っていた最後のアイテムは『双眼鏡』。これを使えば遠くに
いるハンターも確認することができる。

シグナム「視野が狭くなるのは危険だが…無いよりはマシか？」

これで、すべてのアイテムが獲得された。

サタン「ほう…王の城、か…。」

王の城を眺めるサタン。

サタン「中々立派だが私が立てた私とアルルのスイートホームのD
Xサタン城と比べるとまだまだだな…。」

アミティ「此処だ！王の城！」

十六夜「来れました…。」

インデックス「頑張ったらいけたよ！」

アミティ、十六夜咲夜、インデックスが王の城に到着。

国王（演：新川）「君たちは…。」

アミティ「私たち、怪しいものじゃありません!」

大臣（演：KAITO）「じゃあ、右腕を見せて下さい。」

インデックス「はい。」

国王（演：新川）「…どうやら本当そうだな…。じゃあこれを…」

十六夜「ありがとうございます…。」

アミティ 十六夜咲夜 インデックス 免罪符獲得

アミティ「クリアできたね!」

ミッションをクリアした3人に…。

ハンター「…!」

ハンターが接近…。

アミティ「ハンター来たよ!!」

十六夜「こ、こんな時に…。」

ハンターが視界にとらえたのは…。

十六夜「こっちですか…。」

十六夜だ…。

十六夜「私も負けてはいられません!」

建物角を利用し、ハンターとの距離を広げる。

ハンター「…?」

そして、ハンターを撒いてしまった。

十六夜「危なかったですね…。」

そのハンターが…。

霊夢「あと少し…。」

博麗に接近!

霊夢「…!ハンター…。」

そして、見つかってしまった…。

霊夢「さすがにこれは…。」

ポン

博麗霊夢 確保 残り 27人

霊夢「あと少しの所まで来ていたんだけどね…。」

幻想郷で最強と言われる博麗、ミッションをクリアできず…。

インデックス「怖かった…。」

アミティ「咲夜さん、大丈夫かな…?」

魔理沙「えっ!? 霊夢が捕まった!!」

アルル「残り27人だって…。」

十六夜「此処から場所が近いですね…先ほどのハンターが…。」

ヴィータ「絶対に動かねえといけねえのかよ…。」

未だに動く気配のないヴィータ。

ヴィータ「もうクリアしている奴に連れて行ってもらおう…。」

誰かに電話をかける…。

ピリリ！ピリリ！

その相手は…。

シャマル『なんですか？電話してきて…。』

同じヴォルケンリッターの一人、シャマルだ。

ヴィータ「シャマルか！ミッションはもうクリアしたのか？」

シャマル『え、ええ。もうクリアしましたよ。』

ヴィータ「だったらあたしを王の城まで連れて行ってくれねえか？」

シャマル『え！？』

ヴィータ「あたしは城下町の宝石の館付近の草の茂みにいるから！」

シャマル『ちょ、ちょっと！』

ピッ！

シャマル「で、電話切れちゃった…。」

ヴィータ「自分で行くと思つかるからな…。」

他力本願の、ヴィータ…。

シャル「頼まれたら…行くしかないですね…?」

ヴィータのもとに向かうシャル。

シグ「…行くか…。」

シグは移動を始めた。

シグ「こつちの方向か…。」

アイク「よし！着いた！」

美琴「なんとかたどり着けたわ…。」

当麻「この俺だって頑張れば来れたぞ！」

アイク、御坂美琴、上条当麻が王の城に到着。

国王（演：新川）「君たちは…。」

アイク「海賊じゃないし怪しい者でもない！」

国王（演：新川）「では右腕を…。」

アイク「ほらよ。」

国王（演：新川）「この人たちも違うみたいだな…。では、これを…。」

アイク 御坂美琴 上条当麻 免罪符獲得

当麻「よっしゃー！！！！」

美琴「大きな声出さないでくれる！？ハンターに見つかったらどうすんのよー！！」

当麻「す、すまん…。」

現在残り時間 118分26秒 残る逃走者27人

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7073x/>

僕の好きなアニメ＆ゲームのキャラで逃走中！～王国に迫る危機～

2011年10月29日15時16分発行